



ふるえがお



古江小 HP QR コード



令和6年10月23日

松江市立古江小学校学校だより（文責 校長：青山 巧）

本当に10月下旬？ 連日子どもたちは汗だくです

18日の校内気温計は29.7℃ともうすぐ30℃に届きそうなくらいの暑さでした。昼休みに外で元気に遊び、校舎内に戻ってきた子どもたちはどの子も汗びっしょりでした。そういった中でも10月は積極的に校外に出かけました。1年生の秋見つけ、1・2年生のフォーゲルパークへの遠足、3年生のしじみ漁体験、4年生の連合音楽会、5年生の稲刈り、6年生の秋鹿小・大野小合同での地層見学も秋らしからぬ天気で、大変だったようです。天気予報で例年の平均気温よりも+3℃とか、前日比より+9℃とかを聞くと、子どもたちの体調管理が心配になります。

本校は自由服ですので、服装による調整がしやすいと思いますので、朝の気温、日中の気温、その日の体調などを考慮して、どんな服を着ればいいのか判断できる力をつけてほしいです。



1年：秋見つけ



1・2年：遠足



3年：しじみ漁体験



4年：連合音楽会



5年：稲刈り



6年：地層見学

楽しかった修学旅行（9／26～27）

先月末に6年生は1泊2日で広島方面に修学旅行に行ってきました。残念ながら体調を崩した人がいて全員揃うことはできませんでしたが、天気にも恵まれて、予定していた活動すべて順調に行うことができました。感心したのは、時間前行動ができたこと、静かに並んで待つことができたことです。特に平和公園はインバウンドの外国人観光客や日本国内各地からの小中高校生の修学旅行など、本当に多くの人が訪れていて予定通りに行動することが難しい状況でしたが、子どもたちがきちんと行動できたことで、集合写真や碑めぐりなどスムーズにできました。全校朝礼等での姿が校外でも見ることができたことを嬉しく思います。

宮島での買い物、まるか食品工場見学での思わぬお土産、みろくの里では思いっきり遊び、楽しいことがたくさんあった修学旅行でした。

心を揺さぶる歌声

11日に行われた松江市連合音楽会に4年生が参加しました。この日に向けて、1学期には楽器を決め、音楽の授業だけでなく昼休みにも自主練習を重ねてきました。

前日の最後の練習では、1年2組の児童と教職員の一部が壮行演奏会として合唱と合奏を聴く機会をもちました。

体調不良等で全員が揃うことがなく、この日も数人の子どもたちが不在という状況で、担任も音楽担当も心配しているということを耳にしていたので、どのような発表になるのか、少々不安に思うところもありました。それは合唱の入りのところで払拭され、心を奪われてしまいました。全員が指揮者を見つめ、歌詞の意味を理解して感情をこめて、体を自然と動かしながら素敵な歌を聞かせてくれる子どもたちに、心を揺さぶられ、込み上げてくるものがありました。激励の言葉を伝える時には、急に感情が高ぶり、言葉に詰まってしまい、うまく話すことができなくなるほどでした。

当日の発表では、全員が揃ってステージに立ち、前日と同じような素敵な歌声と気持のこもった合奏を堂々と発表してくれました。

昨年度まで本校で勤務されていた米原教頭先生からは、「古江小学校の合唱は金賞でした」という嬉しいメッセージも送られてきました。

25日のひまわり発表会でも観客の心を揺さぶる素敵な合唱・演奏を体育館に響かせてくれると思います。是非聞いてください。

HPをごらんください！

9月以降本校のHPの新着情報は82回となっています。おそらく松江市内の小学校においてトップクラスではないかと自負しています。

教頭が学習や行事の様子を写真に収め、それを積極的に発信しています。学校だよりのタイトル横のQRコードからアクセスしてください。

福島での学び

先月19・20日と東北大震災で被害のあった地を訪れました。福島県は地震や津波の被害に加え、東京電力福島原子力発電所の原子炉建屋水素爆発による放射能被害の影響が大きな地域です。

学校ごと避難、町ごと避難の状況のお話を聞いたり、地震発生時からすべてが止まった立入禁止区域の学校に特別に視察をさせていただいたりしました。そこには、何も持たずに避難をしたのかランドセルや体操服、靴などがそのままの状態で、校庭や校地は草木が荒れ放題でジャングルのような状態でした。

福島県内の校長先生方が当時のお話をたくさんしてくださいましたが、その中で特に印象に残っているのが、「避難訓練などで想定はしていたけど、心のどこかで大丈夫だろうと思っていた。実際に起こった時には、どうしていいか正しい判断ができなかった。」という言葉です。危機管理においては、「最悪を想定して」ということを言われています。その想定を可能な限り多くしておくことで危機に備えられます。しかしながら、想定外なことが起こった時には準備したことは通用しません。想定していなかったからです。その時に必要なのが校長のリーダーシップであり、的確な状況判断と明確な指示だったそうです。

情報を鵜呑みにせずに考えること、あってはならないことが起きた時、不安を増幅させない、落ち着いたふるまいができる校長となるよう日々心掛けます。

最近の子どもたちを見ていると、自分がされた時には敏感で、自分がした時には鈍感であることが強くなったように見えます。それは自分がしたことを客観的に考えることが不十分なためです。保護者が「違うな」と感じた言動の際には、「違うでしょ」ではなく、「今のはどうかな？」と自分で考え、言葉で伝えるように促してください。その積み重ねが成長につながります。